



夏休み明けの8月23日（金）、1学年の「Carpe Diem ゼミナール」の第3回を、いなっせホールにて開催しました。キャリア教育も兼ねた探究の学びとして、東京大学先端科学技術研究センター准教授の春日郁朗先生（伊那北高校出身）の講演を聞きました。

演題は、「人口減少時代を乗り切る地域の仕組みを考えよう～これからの50年間にあなたの周りで起きること～」。これから何が起こるか分からない時代とされていますが、膨大なデータ資料から予想される未来の話をしていただき、人口減少時代をどう生き抜いていくかを考えさせられました。

心に残ったことをいくつか紹介します。

- ・人口減少という課題で、移住促進という考え方があるが、全国で人を取り合っているだけで根本的な解決になっていない。
- ・高齢者人口は、2042年頃まで増加してから減少していく。
- ・人口減少・高齢化によって、人の住み方やまちの様子は、所有者不明な土地の増加、空き家の増加、一人暮らし世帯の増加、生活サービスを支える人手不足、現在ある店などのサービス施設の撤退、インフラの負担比率の増加となっていくという問題。
- ・年金、医療、福祉といった社会保障費の増加（1970年代：3.5万円／人、2020年代：131万円／人）。→このことから、公共インフラを維持していくことが難しくなる。
- ・高校生世代は、どこにしようと、何をしようと人口減少問題と向き合うことになる世代である。
- ・ベトナムでは、日本人のような用意周到な準備をせず、どんどんやろうとする姿がある。そのため失敗も多いが、これからの時代は失敗しても前に進める姿がないと間に合わない。

生徒を代表してお礼の挨拶をした1E 池上

あかりさんは、「人口減少、高齢化といった難しい問題を、地域社会のために、自分事として何ができるか考え、行動していけるかが大切だと思った」と講演の感想を述べました。現在の高校生の将来の身の回りに起こることを突き付けられたような話を聞いて、これからの学びの方向性や自分の行動を考えさせられる有益な時間となりました。



春日先生からの質問で答えた生徒の回答（上下3つ）

